●市の被害状況（令和元年６月21日時点）

死者（災害関連死を含む）		14人
負傷者		10人
建物被害	浸水	2,928棟
	土砂	682棟
その他被害	市管理道路	1,119カ所
	市管理河川	491カ所
	農業施設	1,422カ所

特集 あの災害から1年

～平成30年7月豪雨から学ぶこと～

市に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨から間もなく1年が経過します。今月号では、豪雨災害を振り返り、いつ起こるか分からない自然災害に、どのように備えれば良いのかを考えます。

深い爪痕を残した記録的な大雨

停滞した梅雨前線や台風7号の影響で、日本付近に暖かく湿った空気が供給され続けたことにより、昨年7月5日から8日にかけ、西日本を中心に記録的な大雨が降りました。

広島県内でも強い雨が続き、気象庁は6日19時40分、県内に大雨特別警報（浸水害）を発表しました。それを受け、市は市内全域に避難指示（緊急）を発令。最大で約3,300人が避難所へ避難しました。

大雨による災害で14人の尊い命が奪われ、3,600棟以上の建物が被災しました。一時は市内全域で断水が起こり、道路や鉄道も寸断されるなど、平成30年7月豪雨は私たちのまちに深い爪痕を残しました。

問危機管理課
☎0848・67・6066

時とき　所ところ　内内容　出出演　対対象　資資格
定定員　料料金　用用意する物　申申し込み・先　問問い合わせ先　HPホームページ

あの災害から1年　～平成30年7月豪雨から学ぶこと～

避難した人は16％

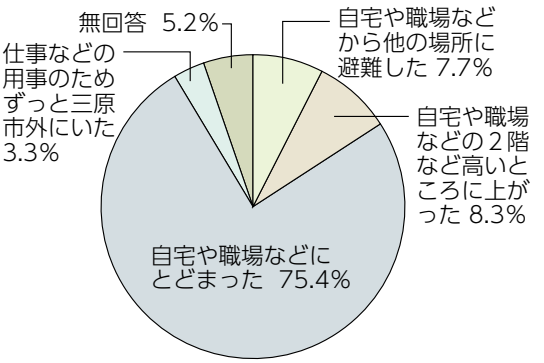
市は昨年9月、市内に住む20歳以上の男女1，200人を対象に豪雨災害に関する市民アンケートを行いました。

「あなたは他の場所へ避難をしましたか」という質問に対して、「他の場所に避難した」と回答した人は7・7％、「自宅や職場などの2階など高いところに上がった」と回答した人は8・3％で、全体の16％の人が何らかの避難行動を取ったことが分かりました。

一方避難しなかった人は全体の75・4％。避難しなかった理由は「自宅・職場にいても安全だと思ったから」が65・4％と1番多く、「これまで避難をした経験がなかったから」が33・6％で、次に多いという結果になりました。

もし再び豪雨がまちを襲った場合、あなたならどのように行動しますか。

【問】あなたは他の場所へ避難をしましたか



※平成30年7月豪雨市民アンケートの結果から。

危ないと感じたら早めの避難を

大雨や台風などの気象情報に注意し、危険を感じたら早めに避難しましょう。

災害の危険度が高まった場合、市は避難情報を発令します。避難情報や同時にお知らせする警戒レベルに応じて適切な行動をとってください（表1）。

気象情報や避難情報は、なるべく複数の媒体を活用して収集してください。

避難する場所を決めておく

災害の種類に応じて、避難する場所を事前に決めておきましょう。市が指定する避難所だけでなく、近くの集会所や建物の高層階、親戚・知人の家など、自分が住んでいる地域の特性に合わせて、避難場所を決めましょう。

外への避難が難しいと感じた場合は、自宅の2階や崖から離れた部屋など、少しでも安全な場所に移動しましょう。

どのように避難するかを知る

避難するときは次の点に気を付けましょう。

- 非常持ち出し品を用意し、なるべく2人以上で明るいうちに避難する
- 運動靴で避難する
- 川や用水路などの危険箇所を避け、避難する

表1　避難情報・警戒レベルととるべき行動

高い↑危険度↓低い

警戒レベル	とるべき行動	避難情報など
5	すでに災害が発生しています。命を守るための最善の行動をとりましょう	災害発生情報（市が発表）
4 全員避難	速やかに避難所などの安全な場所へ避難しましょう。避難所への移動が危ないと思われる場合は、近くの安全な場所や自宅のより安全な場所に避難しましょう	避難勧告、避難指示（緊急）（市が発令）
3 高齢者などは避難	高齢者や子ども、障害者などの避難に時間がかかる人とその支援者は避難しましょう。それ以外の人はいつでも避難できるように準備しましょう	避難準備・高齢者等避難開始（市が発令） 洪水警報・大雨警報など（気象庁が発表）
2	ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう。非常持ち出し品の確認をしましょう	洪水注意報、大雨注意報（気象庁が発表）
1	災害への心構えを高めましょう	警報級の可能性（気象庁が発表）

情報発信の例　三原市内全域に警戒レベル４、避難勧告を発令しました。

次の方法で避難情報・警戒レベルをお知らせします

- ＦＭ告知端末、市メール配信システム、市ホームページ、テレビ、ラジオなど
- 警戒レベル４の場合は緊急速報メール（エリアメール）でもお知らせします

緊急速報メール（エリアメール）とは、特定地域の携帯電話・スマートフォン（au、ソフトバンク、NTTドコモなど）に避難情報などを一斉に配信するサービスです。

市メール配信システムに登録を

避難情報などをお知らせします。

▲登録用2次元コード

自分自身や家族で守る

いつ起こるか分からない災害から自分や家族の命を守るためには、日頃からの備えが大切です。備えが十分にできているかを確認してみましょう。

できている項目に
☑チェックしてみましょう。

●危険箇所や避難場所を確認する

□ハザードマップなどで自宅、近所、職場などの危険箇所や避難場所を確認している
□家族で避難場所や災害時の連絡方法などを決めている

●ハザードマップは市HPで見ることができます

▲HPの2次元コード

知っていますか災害用伝言ダイヤル「171」

災害用伝言ダイヤルは、災害時に親族や知人らに安否を知らせるためのサービスです。「１７１」に電話して、案内に従い操作すると伝言の録音や再生ができます。

●非常持ち出し品を準備する

最低３日間は生活できるように、非常持ち出し品を準備しましょう。家庭では１週間分を目安に飲食料を備蓄しておきましょう。

非常食品
□飲料水（1人1日3ℓ）
□加熱が不要な食品（缶詰、乾パン、チョコレートなど）

生活用品
□毛布
□タオル
□歯ブラシ・歯磨き粉
□厚手の手袋
□ライター・マッチ
□缶切り・ナイフ
□携帯トイレ
□マスク

衣類
□下着・靴下
□防寒着・雨具

救急用品
□救急セット（ばんそうこう・消毒液）
□常備薬・持病の薬

貴重品
□現金
□預金通帳
□印鑑
□健康保険証・運転免許証

避難用品
□懐中電灯
□ラジオ
□乾電池

その他
□携帯用カイロ
□生理用品・幼児用品など（必要に応じて）

●地震の発生にも備えておく

家具などの転倒・落下の防止、ブロック塀などの点検や改修をしておきましょう。

子どもたちも学んでいます　防災のこと

第二中学校では全学年の生徒が、授業で防災について学んでいます。毎年秋には学校と地域が合同で防災キャンプを開催。生徒たちは避難訓練や避難所の運営を体験することにより、地域の人と一緒に災害から身を守る方法を身に付けます。

▲昨年の防災キャンプで災害用マンホールトイレの使い方を習う生徒たち

生徒会長
手嶋悠都（てしまはると）さん（三年生）

昨年の豪雨災害のときは、自分ができることは何かを考え、友人と一緒に給水所でボランティアをしました。学校で学んだことを人のために生かすことができ、よかったです。

時とき　所ところ　内内容　出出演　対対象　資資格
定定員　料料金　用用意する物　申申し込み・先　問問い合わせ先　HPホームページ

地域で守る

大規模な災害が発生した場合、公的機関だけでは十分に対応できないことが考えられます。一刻を争う状況で、災害の被害を最小限に抑えるためには、地域住民の皆さんが協力し、防災活動に取り組むことが大切です。

自分たちの地域を守る自主防災組織

「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯感のもと、町内会や自治会などの地域住民の皆さんで結成するのが、自主防災組織です。

現在市内には125の自主防災組織があり、平成30年7月豪雨のときには、避難の誘導や避難所の運営などで大きな役割を果たしました。

自主防災組織の主な活動には次のようなものがあります。

【平常時】
- 防災知識の習得
- 危険箇所の把握
- 防災リーダーの養成
- 防災訓練の実施
- 公的機関との連携

【災害時】
- 情報の収集・伝達
- 避難の誘導
- 避難所の運営
- 初期消火
- 応急救護

あなたの地域でも作りませんか自主防災組織

市では、自主防災組織の立ち上げをめざす町内会・自治会向けに、出前講座を行なっています。

申 危機管理課（☎0848・67・6066）

豪雨災害をきっかけに自主防災組織を設立

宮沖四丁目町内会
会長　冨永正和（とみながまさかず）さん

今年の5月に自主防災組織を立ち上げました。きっかけは豪雨災害でした。地域の高齢化が進む中、昨年のような災害が発生したとき、どう対応し、どのように避難すればよいかを地域全体で考え、備えておく必要があると感じました。町内会の皆さんの関心もとても高く、役員のサポートもあったので、スムーズに設立することができました。今後は市の出前講座を活用した防災知識の共有や、避難訓練などに取り組んでいきたいと思います。

災害に強いまちへ

三原市危機管理監
小迫祥吾（こさこしょうご）

豪雨災害から間もなく1年が経過します。市では当時の災害対応について検証し、改善を進めているところです。中でも情報収集・発信体制の整備と、地域防災力の強化の2点について、重点的に取り組んでいます。

情報収集・発信体制の整備では、市民や各種団体と連携した情報収集の仕組みづくりを進めています。また、避難情報をより分かりやすく伝えるため、三原テレビやFMみはらとの連携を強化し、それぞれの強みを生かした情報発信を行なっていきます。

地域防災力の強化では、地域に職員を派遣して出前講座を行い、自主防災組織や防災リーダーの養成に力を入れています。自主防災組織がない地域の皆さんにも設立を呼び掛けています。

自然災害が多発する中、官民一体となって災害への備えを進めていく必要があります。災害に強いまちづくりをみんなで進めていきましょう。

平成30年7月豪雨災害から学ぼう―市民防災の集いを開催

時 6日（土）10時～12時
※警報が発表された場合は中止。
所 リージョンプラザ
内
- ●黙とう
- ●基調講演
  演題／講師　平成30年7月豪雨災害等の気象状況から命を守る行動を考えよう／気象予報士　勝丸恭子さん
- ●パネルディスカッション
  テーマ　効果的な避難情報伝達・避難行動の促進を図るために
  出演　県立広島大学教授　江戸克栄さん、市内防災関係団体代表者ほか

参加費無料

定 400人（申し込み不要）
問 危機管理課（☎0848・67・6066）

災害時情報伝達・収集訓練を実施

FM告知端末やFMみはら（87・4MHz）、市内58カ所に設置している屋外スピーカーを利用した訓練を実施します。訓練放送に応じて、災害時の情報収集の方法を確認してみましょう。

時 6日（土）9時から10分間程度
※警報が発表された場合は中止。